

第27回 全国経済同友会セミナー in 盛岡 報告書

- 1 日時 平成26年4月17日（木）13:00～18日（金）13:00まで
- 2 場所 静岡センチュリーホテル
- 3 テーマ 「持続可能な発展をめざして」
～“ふじのくに日本”の新・成長戦略～
- 4 参加者 全国44経済同友会 会員 約1,000名
(鳥取県からは、秦野、清水、細田、松村、白崎、会見、美甘 6名参加)

【第1日目】4月17日（木）

- (1) 開会挨拶 全国経済同友会セミナー企画委員会 委員長 柏木 斉氏
・経営者に必要なのは、前例にとらわれない積極的な挑戦
・日本経済を変えるという自覚を持ち自ら先頭に立って欲しい
- (2) 歓迎挨拶 静岡経済同友会 代表幹事 松村 友吉氏（いちまる社長）
静岡県知事 川勝 平太氏
- (3) 基調講演 東京大学大学院経済学研究科教授 伊藤 元重氏（静岡市生まれ）
演題：「日本と地域の新・成長戦略」

【要旨】

- ・安部政権の「三本の矢」のうち、金融政策と財政政策の二本や矢で日本経済の流れを変えた。日本は「ルビコン川を渡った。もうデフレへの逆戻りはない。」
 - ・長期国債の購入を拡大した日銀からも、その覚悟がうかがえる。今後良くなるのも悪くなるのも、私たち次第である。変化のスピードが急激に増してくる。
 - ・三本目の矢の成長戦略は「民間の投資を喚起する」ことが狙いであり、サプライサイド（供給）とデマンドサイド（需要）のうち、即効性に優れているデマンドサイドの主役は民間経済。
 - ・長引くデフレで企業は「草食性」になったといわれるが、失われた20年間のなかで、企業も金融機関も次の投資に向けた準備は整っているから、リスクをとり、前に出ていくマインドを経営者が持つことが経済活性化の最大のポイントである。
(東京オリンピック、インバウンド観光客増、電力システム改革)
 - ・アジアの経済成長により、輸出も、輸入も増える。ただし、輸出の中身は変化する。経済のグローバル化が地域経済にも影響と機会を与える。たとえば、沖縄―香港への輸出などローカルな動きが活発となる。ミクロのネットワークを広げるチャンスが到来している。
- (4) 岩手・仙台・福島経済同友会空の報告
- ① 岩手県経済同友会 代表幹事 高橋 真裕氏（岩手銀行 頭取）
 - ② 仙台経済同友会 代表幹事 大山 健太郎氏（アイリスオーヤマ(株)社長）

③ 福島経済同友会 代表幹事 渡辺 世一氏（福島民報社 会長）

（５）分科会

①第１分科会

テーマ：「持続可能な発展と企業経営」

議長 中西勝則氏（静岡経済同友会 静岡銀行 頭取）

パネリスト 小林喜光氏（経済同友会 副代表幹事 三菱ケミカル HD 社長）

菅田史朗氏（経済同友会 副代表幹事 ウシオ電機 社長）

坂本光司氏（法政大学大学院 教授）

磯田道史氏（静岡文化芸術大学 准教授）

- ・企業・企業経営に課せられた重要な命題は、収益力強化と社会性・公益性追求とのバランス。熾烈なグローバル競争を勝ち抜く一方、社会の公器として地球環境を守り、行き過ぎた市場主義と決別してステークホルダー（利害関係者）を大事にする経営である。まさに持続可能な経営が問われている。
- ・企業の社会的責任の在り方や質を重視する新しい形の成長について議論した。
- ・中西議長……厳しいグローバル競争の中で企業が追求している収益力と社会が求める公共性の両立の可能性を提起。
- ・菅田氏……社会的責任を経営の中核ととらえる企業トップの意識変化がある一方、取組の実績に満足感はない。サービスや製品の提供など企業活動を通じて社会貢献できる。
- ・坂本氏……社員を大切に人間本位、家庭的な経営、経済性と社会性の両立の実践が必要
- ・磯田氏……徳川家康の例、江戸幕府が長く続いたのは、会社に共通する組織、人を幸せにする大切さに気付いたから
- ・小林氏……人口減少時代、永遠に成長は続かない。量的な成長から質的な成長への転換が今後の課題である
- ・中西議長…（まとめ）人を基本とした経営、質重視の新しい形の成長の追求が持続可能な発展に結び付く

②第２分科会

テーマ：「農業・医療を成長産業として育てていくために」

議長 富山和彦氏（経済同友会 副代表幹事 経営共創基盤 CEO）

パネリスト 八田達夫氏（経済同友会政策分析センター所長 大阪大学 招聘教授）

高山喜好氏（エヌピー健康研究所 代表取締役）

平田克明氏（広島経済同友会 平田観光農園 会長＜鳥大農卒＞）

新福秀秋氏（新福青果 代表取締役）

- ・安倍政権の成長戦略に重点分野として位置づけられた農業・医療について、政府

規制改革会議等の進捗状況を確認したうえで、大規模・効率的な経営、海外進出など先進的な農業・医療経営者の取組をヒントに、農業・医療を成長産業として育てていくためには必要な規制・制度改革や経営の姿を議論した。

- ・ 富山議長…生産労働人口の減少が地方から始まっている。人材確保が最大のネック
- ・ 高山氏…資源が乏しい日本にとって、医薬品や医療技術は新産業の軸になる。

研究を支えるマネジメント人材や財務基盤の強化が課題、成長分野投資への優遇税制、研究開発の環境整備、新薬開発を促すシステムが必要

- ・ 平田氏…雇用は「将来独立して農業をしたいという若者、生産加工調理、企画営業分野で即戦力になる優秀な人材を求める。」

農業に経営的視点を注入する必要性、利益確保のための消費者ニーズの把握、年間を通じた供給態勢を整えること

- ・ 新福氏…フランチャイズ的要素の導入提案、複数の生産者がグループ化して物流や小売業などと連携する「農業生産 FC 本部」の設立
- ・ 八田氏…雇用制度の改革、短期雇用のシステム構築など雇用の流動化を図る施策が産業の成長には必要

③ 第3分科会

テーマ：「再生・日本のモノづくり」

議長 新美篤志氏（中部経済同友会 代表幹事 ジェイテクト 会長）

パネリスト 村井嘉浩氏（宮城県知事）

中沢孝夫氏（福山大学 教授 経営研究所シニア・フェロー）

大道良夫氏（滋賀経済同友会 特別幹事 滋賀銀行 頭取）

小島洋一郎氏（中部経済同友会 小島プレス工業 社長）

- ・ 成長戦略により日本経済は徐々に回復傾向にあるが、グローバル化によって海外生産の急拡大や新興国の急速な追い上げへの対応など日本の企業は様々な課題を抱えている。
- ・ この課題を克服して世界をリードしていくためには、新たな価値創造に資するモノづくり分野の革新が不可欠である。
- ・ 産官学金それぞれの立場から新事業創出や人材育成、日本のモノづくり産業が世界をリードし続けるための方策を探ることとした。
- ・ 新美議長…大企業だけでなく、中堅、中小企業の奮起が不可欠、グローバルで通用し、内需拡大にも寄与する製品や技術開発が求められている
- ・ 村井氏…宮城県の生産労働人口は今後25年間で25%減少する。
第3次産業だけでは衰退する。製造業のウェイトUP、規制緩和など企業誘致を後押しする行政の努力も必要
- ・ 中沢氏…国内中小企業は、車のセンサー技術や乗り心地など外からみえない部分で複雑な仕組みを構築する能力がある。国際競争力があることが実

証されている。

- ・大道氏……環境産業への参入へ金融機関が支援、環境を切り口にすれば、小さな企業でも差別化を図れる。中小企業の事業承継、競争力強化のためのネットワーク化、M&Aの推進
- ・小島氏……IT技術力の向上が課題、IT化を推進することで生産部門の社員がデザイン、マーケティングなど新たな付加価値を生み出す仕事に挑戦可

④ 第4分科会

テーマ：「豊かな少子高齢化社会、若者が希望を持てる社会を目指して」

議長 加藤貞男（関西経済同友会 代表幹事 日本生命保険 副会長）

パネリスト 増田寛也氏（元総務大臣 野村総研 顧問）

中野晴啓氏（セゾン投信 社長）

野路國夫氏（経済同友会 幹事 小松製作所 会長）

- ・少子高齢化の進展は、行政制度や産業構造、社会・経済の在り方を大きく変えていく。その中で、高齢者や若者がともに未来に希望を持てる社会をどのように実現していくのか。いま、行政や地域、企業や個人が何をなすべきかを議論した。
- ・課題が山積する中、ピンチをチャンスと捉え、新しい日本社会の未来像を見出すこととした。
- ・人口など東京一極集中によって地方の疲弊が進んでいる中、高齢者と若者が未来に希望を持てる社会を構築するための課題と解決策を探る。
- ・加藤議長……高齢者と若者は対立するのではなく、共生すべき存在である。共生するフィールドは地方にある。共生の実現に向けて「地域活性化」と「一極集中是正」の進展、その解決策はどうか。
- ・増田氏……東京一極集中の是正が進展しない理由は、長期的な国家戦略がなく、国の施策が一極集中を加速させている。また、地方自治体も広域的視点が欠けている。ばらまき政策はやめて、地方中核都市に資源や政策を集中させ、地方が踏ん張れる拠点を設けることが必要
(人口は2008年をピークに減少、出生率は1.47、2040年には523市町村が消滅の危機にある。)
- ・中野氏……若者は成長を体験していない。問題意識欠如による現状維持思考が強く、高齢者は社会倫理思考が欠け、次世代への配慮不足がみられる。高齢者は若者を尊敬するモラルを持つこと。若者は選挙に行くこと。行動しなければ何も変わらない。
(社会保障の負担 現在3.9人/人→2050年 1人/1人)
- ・野路氏……地方に本社機能を設置することで、地方経済効果がもたらされる。自治体、大学など各種団体と連携した農業林業プロジェクトの取組によって新たな雇用創造につながる。

一極集中の緩和が地方を元気にする。会社や自治体が動けば大きなうねりとなる。

(日本社会全体として、「人」のせいにする。自分で道を開く、行動を起こす。若い人にチャンスを与える。)

【第2日目】4月18日(金)

(1) 分科会報告 各分科会 議長

(2) 総括挨拶 長谷川閑史 代表幹事(経済同友会 代表幹事 武田薬品工業 社長)

(3) 特別講演 「江戸の遺伝子・日本人の遺伝子」

徳川 恒考(とくがわ つねなり)氏(徳川記念財団 理事長)

～徳川宗家18代当主～

【要旨】

- ・ユーラシア大陸と日本が行った戦争は全く形態が異なる。日本のように島国根性のほうが平和である。1440年から1940年までの戦争回数は英国78回、フランス72回、スペイン64回、ロシア61回であるが日本は9回。
- ・日本の国の不思議さ、日本文化のおもしろさ……平和主義、融合文化、日本の文化は「善意の文化」である。キリスト教「創世記」には最後につくったのが「人」、人が世界を支配している文化、日本はやおよろずの神がいる。すべての生き物が神である。人間と自然はイコールの文化。
- ・江戸時代人口は1200万人、100年後は2500万人、戦後のベビーブームによく似ている。
- ・木曾三川河川工事……島津藩が受け持つ。命がけの工事。
- ・江戸の文化は元禄時代に花開く(知名人続出)
- ・八代将軍吉宗……身長180cmの大男、財政見直し、質実剛健、質素儉約
- ・江戸時代にはリサイクル文化が誕生、EX、ローソク、町民文化によってすし、てんぷら(文化文政時代)、お金のかからない娯楽……それが学問
花見、菊、朝顔、寄席、貸本屋～識字率が相当高い、浮世絵、川柳
- ・世界の人口は、S39年では30億人だったが、30年後は人口爆発。
その中で第2次大戦の敗戦国、日・独・伊だけが人口が減る。
- ・気温は3.8度上昇、海面は82cmUP、楽しい「質素儉約」に努めること。

(4) 閉会

次期開催地代表幹事挨拶……高澤 基 金沢経済同友会代表幹事
(北國新聞社 社長)

時期開催日 平成27年4月16～17日

閉会挨拶……田中 康隆 静岡経済同友会全国セミナー実行委員長

(田中産商 社長)

エンディング……………合唱「富士の山」 ソプラノ歌手 西尾舞衣子氏ほか

(5) 昼食 解散

会場：ホテルセンチュリー静岡



開会あいさつ (柏木齊氏)



歓迎あいさつ 松村 友吉 静岡代表幹事



歓迎あいさつ 川勝平太 静岡県知事



基調講演：伊藤元重 東大教授



第3分科会の様子



分科会報告





総括あいさつ 長谷川閑史 代表幹事

特別講演 徳川考孝（つねなり）氏



次期開催地 高澤 基 金沢代表幹事

閉会あいさつ 田中康隆 全国S実行委員長